

「ちほみのり」

【品種の特徴】

- 出穂期及び成熟期は「こしいぶき」に比べ7日早い早生のうるち種。
- 耐倒伏性は強。
- 穂発芽性はやや易。
- 偏穂数型のため茎数は確保しやすい。
- ふ割れが発生しやすい。

【生育のめやす】

生育ステージ	葉数 (葉)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD)
最高分げつ期 (6月28日頃)	9.5~10.5	50~55	650~750	40~44
幼穂形成期 (7月1日頃)	10.0~11.0	55~60	640~740	40~44
2回目穂肥時 (7月10日頃)	11.0~12.0	70~75	620~700	40~44
出穂期 (7月21日頃)	12.0~13.0	—	600	40~42
成熟期 (8月26日頃)	—	稈長72	—	—

【収量構成要素のめやす】

目標収量	720kg/10a
穂数	600本/m ²
一穂粒数	63粒
m ² 当たり粒数	38,000粒
登熟歩合	85~88%
千粒重	22.0~22.5g

【主な作業と生育ステージ及び管理のポイント】

時期	4月		5月				6月				7月				8月				9月			
	20		10		20		10		20		10		20		10		20					
主な作業と生育ステージ	は種		田植え				中干し				穂肥 幼穂形成期		穂肥				落水				収穫 成熟期	

基肥施用	田植え	中干し・溝切り	病虫害防除	穂肥施用・水管理	収穫・乾燥・調製
<ul style="list-style-type: none"> ・基肥窒素量は分施の場合は7kg/10a、全量基肥施肥の場合は13kg/10aをめやすとし、ほ場の地力に応じて加減する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・田植えは5月上旬に行う。 ・栽植密度は60株/坪以上とし、1株苗数は3~4本とする。 ・鳥害を回避するためほ場の団地化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中干し・溝切りを実施し、一度田面を固めて収穫時の機械作業が可能な地耐力を確保する。 ・中干し後出穂前は稲体活力が低下しないよう、土壌を乾かさないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葉いもち防除は、育苗箱施用等により必ず行う。 ・葉いもちの発生を確認した場合は、速やかに薬剤防除を行う。 ・穂いもち防除は、予防防除を行う。 ・斑点米カメムシ類の防除は、草刈り及び加害種に応じた薬剤防除を行う。 ・紋枯病防除は、前年の発生が多かったほ場では予防防除を行う。 	<p>【分施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穂肥は出穂期25~23日前（幼穂形成期・6月末頃）と14日前の2回に分けて施用する。 ・出穂が早いので、1回目の穂肥時期が遅れないように注意する。 ・1回目の穂肥量は窒素成分で3~4kg/10a、2回目を2~3kg/10a、合計6kg/10aをめやすとする。 <p>【分施・全量基肥】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出穂期頃までは葉色（SPAD値）40以上に保つ。 ・出穂期25日後まで飽水管理を基本とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫適期は積算気温950~1,000℃をめやすとし、黄化粒割合が90%になった頃とする。 ・胴割粒の発生を防止するため、乾燥は適正温度で行い、急激に乾燥させない。